

■新着図書案内■

書名	著者	出版社	内容
別れる？それともやり直す？カップル関係に悩む女性のためのガイド	ランディ・バンク ロフト著	明石書店	どのような選択をすればよいか、DVのグレーゾーンで苦しむ女性が自分の人生を生きるためのガイド。
サバイバー 池袋の路上から生還した人身取引被害者	マルセーラ・ロ アイサ	ころから	日本でセックスワークを強要されたコロンビア人女性の手記を日本語訳。母国でベストセラーとなった真実の物語。
旦那(アキラ)さんはアスペルガー	野波 ツナ	コスミック出版	アスペルガーの夫との日常を描いたコミックエッセイ全7巻
戦争と看護婦	川嶋みどり、川 原由佳里他	図書刊行会	戦時中「戦時召集状」によって召集された、赤十字看護看護婦の戦争体験を綴る。
家族が死ぬまでにすべきこと	斉藤 弘子	溪流社	闘病の夫に寄り添った終活カウンセラーが体験をもとに語る、大切な人の看取り。いざという時必要な心得と準備。
ほとんどの社員が17時に帰る 10年連続右肩上がりの会社	岩崎 裕美	クロスメディア・ パブリッシング	離職率100%、定時は終電の元超ブラック企業の取締役がホワイト社長に変わるまで。
日本女性の底力	白江 亜古	講談社+α文 庫	80歳、90歳になっても、現役。自分の仕事を愛し、生涯を打ち込んだ27人の女性たちの痛快インタビュー集。
ルポ貧困女子	飯島 裕子	岩波新書	「一億総活躍社会」の掛け声の陰で、困難を抱えてひっそりと生き抜こうとがく女性たちの等身大の姿に迫る。
王さまと王さま	リンダ・ハーン、ス ターン・ナイランド	ポット出版	子どもたちが性の多様性について学ぶことができる、オランダで生まれ、世界で読まれているLGBT絵本。



■配偶者や恋人からの暴力についての相談■

枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」

050-7102-3232 (専用電話) 平日 午前9時～午後5時30分

～「DVかもしれない」と思ったら、一人で悩まず相談してください～

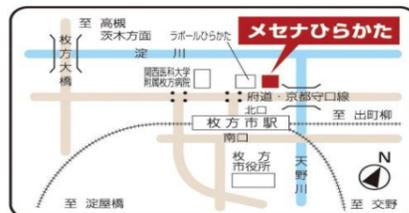
ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、親密なパートナーからの暴力のことです。「殴る」、「蹴る」という身体的な暴力のほかに、大声でどなったり、無視したりというような精神的に追い詰める暴力もあります。また、行動を監視する行為、性的な暴力もDVに含まれます。



ウィルは女も男もいきいきと暮らせる社会づくりをめざす枚方市の拠点施設です

枚方市 男女共生フロア・ウィル

枚方市駅より徒歩約8分
〒573-1191 枚方市新町2-1-5 メセナひらかた会館3階
TEL 072-843-5636 FAX 072-843-5637
開室時間 平日 9:30～21:00(火曜休室) 土日祝 9:30～17:00



【女性相談のご案内 お問い合わせ申し込みはウィルへ】

電話相談 (専用電話072-843-7860) 月曜日:10:00～12:00/13:00～17:00 木曜日:13:00～16:00/17:00～21:00
生き方相談 (面談 要予約) 水曜日:13:00～21:00 金曜日:10:00～17:00
法律相談 (面談 要予約 1人1回限り) 第2金曜日・第3木曜日・第4土曜日:13:00～16:00 第1金曜日:17:00～20:00

ウィル

枚方市男女共生フロアだより 平成29(2017)年2月発行

◆『居場所』があるということ◆

女性や子どもたちにとって生きやすい社会とは何かと考えることが多い昨今です。

女性・子どもに限らず、すべての人が自分らしく生きることができ、しんどい時にほっとできる『居場所』を見つけることができれば、きっと何かが変わる気がしませんか。

ウィルでは毎年恒例の「ウィル de シネマ」で映画を2本上映します。ヴェネツィア国際映画祭受賞作品「リリーのすべて」は、女性として生きることを切望する夫と、夫のすべてを受け入れる妻を描いた実話を元にした作品です。自分らしく生きることを選んだ夫、その夫を支え共に生きることを選んだ妻。相手の存在意義や価値観を認め合い、お互いに心の『居場所』を得た2人だからこそ、差別や困難に立ち向かうことができたのだと思います。

もうひとつの映画「さとにきたらええやん」は大阪市西成区にある「こどもの里」の日常を描いたドキュメンタリーです。貧困や、虐待体験・DV被害などの困難をかかえながら子育てをする母親たちや、様々な問題と向き合う子どもたちが休息できる場として在り続ける居場所「こどもの里」。

どちらの映画も形は違いますが、『居場所』の大切さを考えさせられる大きな課題を提示していると感じました。子どもの虐待や貧困、女性に対する性犯罪やDV、またヘイトスピーチや差別的な事件などが横行する今の社会で、お互いを認め合い、お互いを尊重する大切さ、またマイノリティーを理解し社会の中で共に生きることが大切さを発信しながら、しんどい時に相談できる場所・ほっとできる場所・ほっとできる関係をつくることができたらいいなと思います。



contents

- (1) ウィルコラム
- (2) 男女共生フロア・ウィルの移転について
- (3) イベントのご案内
- (4) 新着図書案内

駅から近くて便利

3月22日（水）

**男女共生フロア・ウィルが枚方市駅直結の
ひらかたサンプラザ3号館4階に移ります**



- ◆女性のための各種相談や、男女共同参画に関する図書や情報提供コーナーがある「男女共生フロア・ウィル」が3月22日（水）メセナひらかた会館から、ひらかたサンプラザ3号館4階に移転します。新着図書のコーナーや、キッズスペースもありますのでお気軽にお立ち寄りください。
- ◆移転に伴い、メセナひらかた会館の2階諸活動室は3階に移転し、名称を「男女共同参画活動ルーム」として利用時間も拡大します（利用団体は所定の手続きが必要です）。
- ◆各施設の開所時間は下の表をご参照ください。



【各施設の開所時間】

施設の名称・場所	開所時間	備考
男女共生フロア・ウィル (ひらかたサンプラザ 3号館4階)	午前9時～午後5時30分 (土日祝日、年末年始休所) ※ただし、火・木は午後8時まで、 第1土曜日(4月・5月は第2 土曜日)午前9時～午後5時30 分まで開所しています。	女性のための各種相談事業 (面接、電話、法律)につ いては夜間、土曜日も実施 します。(相談時間帯は別途 お知らせします)
男女共同参画活動ルーム (メセナひらかた会館 3階・現ウィル事務室)	午前9時30分～午後9時 (祝日を除く火曜日、 年末年始休所)	土日、祝日の夜間も利用で きるようになります。 ※ウィルで事前の団体登録 必要

※メセナひらかた会館2階の諸活動室は、移転作業のため3月22日（水）以降はご利用できません。ご了承ください。
3階の男女共同参画活動ルームは4月1日（土）からご利用いただけます。

移転についてのお問い合わせはウィルまでお気軽にお電話ください。



枚方市人権政策室男女共同参画担当

(男女共生フロア・ウィル)

TEL 050-7102-3239

FAX 072-843-5637

引越
します!!



ウィル de シネマ



【さとにきたらええやん】(定員 300人)

2月16日(木) 午後6時半

様々な事情から親元を離れている子どもだけでなく、自らの虐待体験や、DVなどの問題をかかえながら子育てをしている母親たちも支える「こどもの里」。その日常を描いた感動的なドキュメント映画。

【リリーのすべて】(定員各 360人)

2月17日(金) ①午前10時 ②午後2時

男性として生きることに違和感を感じ、女性になることを切望する画家(エディ・レッドメイン)と、夫の変化にとまどい、葛藤しながらも彼のすべてを受け入れる妻。実話を元に描いた話題作。15歳未満鑑賞不可。

【場所】メセナひらかた会館 多目的ホール(2階)

【保育】先着10人 生後6ヶ月～就学前児
(要予約)

シングルマザーのお気軽サロン 番外編

子育てママのお片付け講座

～子どもと一緒にすっきりお部屋作り

2月25日(土) 午前10時～12時

講師：中西 直美さん

(片付けアシストNaro 代表)



仕事や子育てで忙しい日々の生活の中で、お部屋のお片づけに悩む子育てママの皆さん、子どもと一緒に楽しく行う方法を学びませんか。※定員30人

シングルマザーのお気軽サロン

～ゆっくりおしゃべりしませんか～

3月25日(土) 午前10時～12時

ファシリテーター：坂田恭子さん



お茶を飲みながら、日ごろの思いを語り合ったり、情報交換をする場所です。シングルマザーの人、シングルマザーになるかもしれない人は、どうぞお気軽にご参加ください。※定員15人、随時受付中!

【場所】メセナひらかた会館 第2会議室(3階)

【保育】先着10人 生後6ヶ月～小学2年生
(要予約)

【参加費】すべて無料

【映画・講座の申し込み】

電話またはファクスでウィルへ

※ファクス申し込みの場合は、名前・電話番号・イベント名・2/17の映画は希望時間①または②・保育希望の有無を明記してください。参加不可の場合のみご連絡いたします。



<ポン子のシネマ de ひとりごと>

「未来を花束にして」という話題の映画が気になる!

英国の歴史を変えた女性参政権運動の活動家たちを描いた映画

が1月27日より全国で公開された。1912年のイギリス、ロンドンでサフラジェットと呼ばれていた行動する女性参政権運動家(WSPU)と、搾取され続ける一女性労働者の出会いから始まる物語。

キャリー・マリガン、メリル・ストリープといった女優や監督・脚本・スタッフなど女性による女性のための映画として、女性の歴史が描かれた名作と評されている。ぜひ観に行かなくては!! (ポン子)

<2015年 イギリス製作>

